



二〇一四年度

「関東ブロック・ユネスコ活動研究会」

群馬大会を終えて

関東ブロック・ユネスコ活動研究会 群馬大会実行委員会委員長 須田 洋光

二〇一四年度の「プロ研」群馬大会にあたり、行政機関・多数の協賛者、並びに会員等関係者のご支援、ご協

力に心からお礼を申し上げます。お

蔭様で、県民の宿題であった「富岡

製糸場と絹産業遺産群」の世界文化

遺産登録の記念に相応しい大会とな

りました。それは関東プロ群馬大会が、

「プロ研」の変革に挑戦できた大会で

あったからであります。特に、下記

二つの課題への十二ユ協の共通理解

は大きな推進力となりました。

一「関東プロ研」の運営を『オール群馬』

で取り組み、「関東プロ研」を見直し

運営の簡素化、開催負担軽減を図

ること。

二「ESD」に基づく「持続可能な社

会の実現」を目指すユネスコスクー

ル運動を進めユネスコ精神を継承

し進展させること。

二つの課題解決への挑戦はかなり

手間の掛かる事でありました。第一

の課題は、「オール群馬態勢」による

十六回の本音の協議が課題解決態勢

を作り、「プロ研」への主体的取り組

みと成る事が支えとなりました。県

の過去開催の「プロ研」の内容・輪

番で実施してきた「関東プロ大会の報

告書」を見直し、分科会の発表は実

践報告にとどめ今後のユネスコ活

動への提案型にできた事や、コーデ

ィネーターの役割発揮により論議が深

められたのではないかと考えます。

課題二は、ユネスコスクール校の

ESD への意欲的な取り組みを生か

す提案型発表を基に、ユネスコ活動

の方向性を探求する協議がなされた

事でありました。今大会の運営は「オー

ル群馬」で取り組まれましたが、大

会テーマの浸透・分科会の充実・運

営の負担軽減を進展させました。

十二ユ協の共通理解を図る事は、

限られた実行委員会の回数、時間で

は決して容易な事ではなく、県内会員

の多様な考え方を統一することも決

して十分ではありませんでした。し

かし、十二ユ協が与えられた業務、

役割を果たして戴いたことに感謝を

申し上げます。

今回の関東プロ研群馬大会のテーマ

は、「持続可能な社会の創造と実現」

— ESD・民間ユネスコ活動からの

発信—と決定し出発しました。日ユ

協の「民間ユネスコ活動の活性化」

に於ける関東プロ大会の負担軽減と簡

素化では、開催会場の公共機関使用、

一日開催等の英断をしたところす

が、問題は研修の場とするための分

科会内容の充実でありました。

現在民間ユネスコ活動は、社会の

グローバル化、人口高齢化、多様な価値観等の中で大きな試練を迎えています。今回の「プロ研」の実施の中から見えてきた視点を今後の活動

に生かす事が大変大切な事と考えます。その一つは、県ユ連・ユ協と関係機関との連携を深め、ユネスコ活

動のさらなる推進のため、役割分担のすみ分けを明確にする。二、青少年の育成と ESD によるユネスコス

クール運動を推進する。特に、県内初の県立・私立高校の動きと連携を

強める。三、県ユ連組織改革を進め「オール群馬」を対象とした情報化時

代の若手世代を登用し、活動の見え

る化と発信を強化する。各ユ協が進

てきた長年に渡る実績に学び、県全

体の連携と主催事業のマンネリ化打

破に取り組むことも必要と考えます。

UNESCO の目的である「平和の文化」の実現活動は、永遠の活動とも

いえます。会員の使命感と活動こそ、その目的実現の答えです。会員の益々

のご活躍を祈念すると共に県ユ連のご発展をお祈りいたします。